



HP <http://www13.plala.or.jp/tagawa-kenrou/>
E-mail: tagawa.kenrou@smail.plala.or.jp

発行所

＝ 全建総連加盟 ＝

田川建設労働組合
教宣文化部山形県鶴岡市大塚町26-13
電話 (0235) 22-2832
FAX (0235) 22-3370

新年によせて

執行委員長

川 上 清太郎

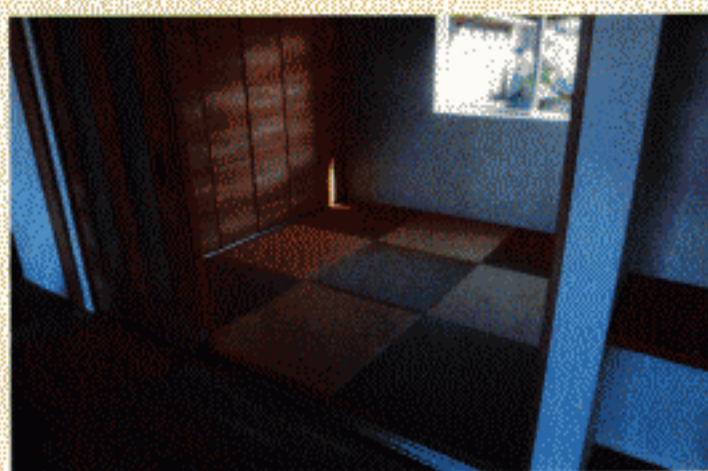
組合員の皆様、新年明けましておめでとうございます。今年こそ、今年もと様々な期待と夢を抱き迎えられたと共に、新型コロナウイルスに感染する事なく、仕事・組合活動に御活躍されました事に、心よりお喜び申し上げます。

さて、昨年からの新型コロナウイルスによる被害は、世界に計り知れない人材・経済損失と不安と恐怖を与え続け、市内に

匠のわざシリーズ

第29回

今回は地域密着で馬場たたみ内装を経営している、馬場充さん（温海分会）を紹介いたします。



馬場さんは、高校卒業後、親も畳屋をしていましたが、「他人の飯を食わねばだめだ」という事で、羽黒地域（手向）にある羽黒製畳の渡邊誠治さんに弟子入りし、三年間の修業を終え、親と共に馬場畳店の仕事をこなし、四十八年が過ぎたとの事です。

畳の文化も変化し、カラー表二色を使い分けた半畳の縁無し等も手掛け、現在は息子の壮さんが内装工事を行い、リフォーム全般を手掛けていくとの事です。

（記・教宣部 白澤 勝敏）

感染者の発生時には困惑し、様々な手探りで対応が必要でした。組合事務所では、透明ポリエチレンカーテン、訓練校との空間仕切りを設置するなどし、又、初めて聞くカタカナ言葉にも右往左往しました。四月頃より、自粛雰囲気になり多数の組合活動や行事を縮小・中止し、組合集金活動等にまで不安を感じました。それにも拘らず、皆様の揺るぎ無い気概で、一年間の活動を終える事ができました。心から御礼を申し上げます。

三年度に予定する組合活動は、個別に継続可能かを、コロナ禍と予算面を執行委員会、委員会ですっきり討議致します。予算面では、山形県建設国民健康保険組合から、当支部への交付金を令和二年度から三年間五%ずつ減額（単年度当たり約五十万円）する旨の通達があり、討議の中心軸になりました。

建設国保組合運営を巡っては、六月と十一月に厚労省・財務省へ全国の仲間と一丸になり、大衆運動の業書、予算獲得運動を実施し、秋には田川建設労働組合で初めて、全員の業書が回収配達されました。県内選出国會議員五人の内、第三選挙区は田川建労が代表して七月と十一月に加藤代議士鶴岡事務所へ「医療保険一元化反対」「特別助成金の満額確保」の嘆願書を提出致しました。県知事には、特定健診受診者に補助金制度の新設を請願し、来年度予算への足掛かりを得ました。また、同日リフォーム支援事業の存続拡大を要請し、早速、コロナ対策リフォーム補助金制度を創設・実施して頂き好評を得ました。

今後、後期高齢者医療制度により、毎年建設国保組合員の減少は避けられず、若者の入職、組合加入促進、或いは家業継承の後継者育成運動は急務です。労働者の雇用関係経費の想定資料を作成中です。これにより、経験豊富な職人が、自動車に満載の道具を揃えて働く対価年収の低さが顕著になりました。元請工事受注を多くする！組合員同士で仕事を紹介し合い、知人友人、親戚、地域への量産住宅会社・地域建築会社、組合員以外の営業侵攻を妨げる方法を皆で考え、年収を上げましょう。

結びに、今年も一歩一歩少しずつ前進し、各世代の全組合員とご家族が健康で明るい一年になります様、御祈念を申し上げます。年頭のご挨拶と致します。本年もよろしくお願い致します。

第61回

全建総連定期大会

副執行委員長 関 寛

本来の定期大会であれば三日間に亘り開催され、全国から千四百人も代議員・組合員が参加する大規模なものでした。しかし、今回はコロナ禍により島根県で開催予定の大会を断念し、全建総連会館からのインターネットによるオンライン開催となりました。期間も午前十時から午後三時までの一日間に短縮され、参加者は全国の県連の副委員長が代議員として各会場から出席しました。山形県連からは佐藤委員長、井上書記長が全建総連定期大会の執行部として、川上県連副委員長他三名の副委員長が代議員として、私と関川さん（酒田）が組合員として合計八名が、十月十四日（水）けんせつプラザ山形に集まりました。

予定通り初のリモート会議が開催され、冒頭吉田委員長より画面を通して挨拶があり、○コロナウイルス感染症対策の一年であった

○コロナ禍での持続可能な活動と体制の見直し

○キャリアアップシステムにおける料金体制の見直し

○アスベスト訴訟、補償・救済に全力

○担い手育成の拡充

等が述べられました。

質疑応答については、事前提出により当日配布され、主なものはアスベスト最高裁判決について、消費税の減税、キャリアアップシステムの見直し、働き方改革等四十六件あり、当日のライブ質問も加えて説明がありました。その後、第六十年度経過・決算、第六十一年度運動方針案・予算案などが採決され全て承認されました。表彰においては山形県連から、川上（田川）・水戸（山形）の両副委員長が永年表彰を受け、役員改選では、新全建総連委員長に中西孝司氏（香川）が副委員長に北東地協から佐藤四男氏（山形県連）が、中央執行委

員に川上清太郎氏（田川）がそれぞれ選出されました。ご活躍を期待します。

今回のリモート会議は初めてにしてはスムーズに開催されましたが、やはり人が集まる大会でないと熱気や緊張感が感じられず、物足りなさを感じました。来年は宮城県で開催されます。少人数でも組合員が集まれる大会になるよう願っています。



▲リモート会議の様子

田川建設労働組合

大会告示

田川建設労働組合第六六回定期大会を組合規約第八条の規定にもとづき、次のとおり開催します。

執行委員長

川上清太郎

日時

令和三年二月二十一日
午後一時〇〇分

会場

グランドエル・サン

代議員

令和二年十二月末組合員数で、支部分会毎に十三人に一人（四捨五入）の選出となります。

開催方法について

新型コロナウイルス感染症予防対策の為、参加人数を制限し、時間を短縮の上開催いたします。

具体的には、支部分会毎に選出された代議員の約半数の方に出席を求め、残り約半数の方には委任状を提出いただき、それを以って出席とさせていただきます。

また、通常一日日程のところ、午後からの半日日程と短縮の上、会場は十分な間隔を確保し、必要に応じ換気もおこなって開催します。

なお、昨年行いました安全祈願祭は、組合員の皆様の日々の安全、また疫病退散を祈念するまたとない機会となりますので、今回も執り行う事といたしました。

令和2年度 国保組合会

副執行委員長 関 寛

去る七月三十一日、理事・組合会議員四十三名の出席のもと国保組合会が開催され、全ての議案が承認されました。組合会には年に二回あり、七月は決算、二月は予算について審議されます。

コロナ禍における財政では保険料の減免措置が取られ、田川では十九件の申請があり、全て受理されました。政府が進める社会保障制度改革においては、団塊の世代が全て七十五歳以上になる令和7年を見据え、社会保障費の圧縮が考慮されています。この様な情勢の中、組合会ではここ数年、保険料の値上げや積立金の取り崩しなどで運用してきました。その結果、歳入(五十六億六千万)がわずかに増加し、歳出は(五十三億四千万)減少したことから三年ぶりの単年度黒字決算となり、来年度の値上げは見送りの案が出されました。繰越金も約三億円あるものの、積立金への繰り戻しや国への返還金一億円、組合員の減少などで財

政運営は厳しい状況が続くと見られます。こうした中、組合会では行財政改革に取り組んでいます。各支部への国保交付金の減額、理事定数の削減等を決定しています。田川支部では、三年間で交付金の一・五割削減とこれまでの理事定数三名から一名減の二名となります。今後も更なる改革が求められる事と思いますが、組合員へのサービスが低下しない様に運営に努力する必要があると思います。



▲審議の様子

組織拡大キャラバン

組織対策部長 佐藤 力

去る十月五日、県連組織拡大キャラバン行動を行いました。

コロナ禍のため、一昨年と同様には出来ませんが、県連からは井上書記長にも参加して頂きました。田川建設労働組合からは副執行委員長と佐々木質・税部長と渋谷青年部長と私の五人が参加して、朝八時に出発しました。

県連からは人員の削減と現場訪問は行わず街宣活動をするようにと要請がありました。が、田川建設労働組合では現場訪問を行なう事にしました。今野労対部長より、建築現場の情報をお聞きしていたので多くの現場を訪問出来ました。何分キャラバンカーが大きく、狭い道には中々入って行くことが出来ないもので運転を担当した渋谷青年部長も苦戦したようでしたが、十九程の現場を訪問する事が出来ました。コロナ禍でも建築現場の職人の方々には嫌がる顔をすることもなく、快く受け入れてくれました。ほとんどの職人が



▲雨の中での組織拡大行動

田川建設労働組合の仲間と皆さん元気に働いていました。昼ごろには、飽海の仲間の所までキャラバンカーを届けなければいけないので時間が限られていましたが、無事に飽海さんの所へ時間内でお届けすることができて大変良かったです。

今回のキャラバン行動を行って見て、昨年度は街宣活動を自粛してきましたが、今後街宣活動を行っていかれると思います。今年度は組合活動を元に戻していきたいと思っています。

祝 国土交通大臣 表彰受賞！

今般、鶴岡支部の斎藤留吉さんが「第三十二回住生活月間功労者国土交通大臣表彰」を受賞されました。(令和二年十月九日・国土交通省発表)

これは、住意識の向上、ゆとりある住生活の実現及び建築物の質の向上を図るため、各分野において活躍された個人・団体に対し、贈られるものです。本来であれば、記念式典において表彰状の授与が行われるところですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、式典が中止となっておりま。

斎藤さんは、多年にわたり住宅産業に従事し、地域の気候・風土に適合した地場産木材を利用した建築設計に取り組み、良質な住宅の供給に貢献するとともに、関係団体の役員として、業界の発展に寄与した事が認められ贈られたものです。斎藤さんおめでとございます。

軽スポーツ大会

組織対策部長 佐藤 力

去る九月六日(日)、大山の下池にて軽スポーツ大会を行いました。天候にも恵まれ、たくさんの方々に参加をしていただきました。コロナウイルス感染防止対策として、非接触型体温計二個とフェイスガードを人数分用意できたことは良かったと思います。

スタート時には五十人以上

の団体が密にならないように分散して、短い開会式に努めたつもりですが、不慣れで皆さんにご迷惑をおかけした面もあったかと思えます。小さなお子さんも交えて、とても和やかな雰囲気の中、軽スポーツ大会になりました。

コロナ禍の中で開催できるのか随分悩みましたが、開催して大変良かった



▲間隔をあけてウォーキングを行いました

日本の伝統的 大工塾について

技術対策部長 佐藤 三郎

本事業は、田川建労と鶴岡伝統木構法千年塾との共同事業として、国土交通省の採択を受けた補助事業です。三年間の事業計画で最終的に伝統工法による実物大の建築物を作成する事を目標としています。

趣旨は、

- 一、市内・県内で減少傾向となっている若手大工従事者の担い手確保と技能向上のため、鶴岡市内に残る伝統工法熟練職人による大工技能塾を開講する。
- 二、地元の木造住宅、木造公共建築物の整備推進を行える人材の若返りを図る。
- 三、地元企業の人材育成と技術力向上に対する重要性についてのきっかけ作り、若い人材の流出を食い止める一助を担う。
- 四、災害時など建物資材が枯渇した状態でも応急仮設住宅建設の対応が出来る技術力のある人材を増や

し、地産地建できるスキルをつける。

この四項目を基本としています。

第一回運営委員会(定期的)を六月十六日に行い、七月五日には、塾生九名を迎えて、田川建労で入塾式を行いました。

塾長には委員長の小川清太郎、副塾長に番匠剣持工務店剣持猛雄氏(中上級)、講師に富樫純治氏(中上級)と技術対策部副部長の大井正之(初級)の体制で指導します。初級・中上級の二チーム編成で、月二回の講習を基本に行っています。塾生の活動としては、初級第一回目を七月十二日に田川建労で始め、中上級第一回目を七月十九日に余目の家づくり工房サイトウ



▲入塾式の様子

様の事務所で始め、初級・中上級合わせて、十二月六日まで十七回行いました。昨今は、木造軸組のプレカットが主で、墨付け、刻み、鉋かけ等に触れる機会が減っているなか、伝統工法を学ぶことは大変貴重な体験になると思います。塾生の諸君、カリキュラムを熟して三年間頑張ってください。我々、技対部も応援しています。

社保対部主催 健康管理学習会

社会保障対策部長 和田吉和

毎年開催されている健康管理学習会ですが、私にとつては、社保対部長になって初めての行事となりました。新型コロナウイルス感染症の状況により心配しておりましたが、人数を三十二名と制限する事で去る九月十三日(日)に開催する事が出来ました。

今回は「痛みのない新しい生活様式」と題して、日本整形外科学会相談医(元黒羽根

整形外科院長)黒羽根洋司氏を講師に招き講演をして頂きました。先生には、職人がなり易い腰痛についてのお話をお願いしたところ、膝の痛み、股関節の痛み、肩周辺の痛み、コロナ禍での新しい生活様式のスライドを使用しながら、ユーモラスに語って頂きました。腰痛の六割が男性である事、MRIの



▲講師の話に耳を傾ける参加者

画像で診断がつくもの(椎間板ヘルニア等)、診断がつかないもの(急性腰痛症、いわゆるぎっくり腰)、慢性腰痛症など腰痛の原因には不明なものが多い事、ぎっくり腰で痛みが強い時は必ず冷やす事、良い医者選びも技術のうち等、丁寧に説明をして頂きました。最後に先生の「和田さん太りすぎ」の言葉に「異議なし」の声、会場内爆笑で承認され

ました。正座と肥満は膝の敵、肥満は腰に負担をかけ体に一つも良い事はないのです。

コロナ禍での新しい生活様式の中でコロナ太りを避ける話がありました。食生活の改善、主な料理のエネルギー量を知る、食事の工夫、良く噛んで食べる、規則正しい食事、間食は量を決めて、腹八分目に病なし、夜食はしない、お酒の功罪正しい飲み方、筋トレとウォーキング(散歩)の習慣、ライフスタイルの改善等、私にとつてはどれを取っても心に突き刺さる言葉で頭が痛くなってきました。皆さんも太りすぎには十分注意して下さい。

今回の学習会では、自分の体は自分で治す努力も必要だと教えて頂きました。

社会保障対策部では、特定健診受診率七十%を目標にしています。コロナ禍ではありますが、自分自身の体、どうかご自愛ください。

日曜日の御多忙中にもかかわらず参加して頂きました組合員の皆様、本当にありがとうございます。来年も参加をお待ちしております。

青年部海岸清掃

ボランティア活動

青年部長 渋谷 真

七月五日(日)に、湯野浜海岸清掃ボランティア活動を行いました。今年は、コロナ禍という事もあり、青年部員九名で行いました。例年であれば、この時期は、他の海岸清掃の団体や海水浴の人がいたのですが、今年はほとんどいませんでした。

コロナ禍といえど、やはり海岸にはゴミが多く流れついていました。今まではあまり気にしていませんでしたが、海外のゴミがすごく多い印象を受けました。本来であればこの様な時期に、海岸清掃をする必要はないのですが、流れ着くゴミはあると思ったので行いました。



▲海岸清掃を行う青年部員

令和二年度は、多くの青年部行事を行うことが出来なかったのですが、海岸清掃は行って良かったと思っています。令和三年度はコロナが治まり、例年通りに色々な行事を行い、青年部の仲間達と交流をしていけたらと思います。

上棟式用建物部材点検

住宅対策部長 五十嵐 恵 治

本年度より、渡部均さんより引き継ぎ住宅対策部を担当する事になりました。初めての専門部で戸惑いもありましたが、毎年行っている上棟祭が主なので、部員全員の協力がなければ出来ないと思っています。その矢先、春より新型コロナウイルスの流行で他の行事も中止になり、思い通りに行かない状況になってしまいました。

上棟式用の建物は、鶴岡市のウッドフェスティバル用に十数年前に日本の木造の伝統技術を取り入れながら作られている建物であります。最近の住宅では、コスト削減できるプレカット加工が主流になってきました。何十回も組立と解体を繰り返して使用しておりますが、伝統を残しつつ祭りでは活躍できる建物だと思っています。



▲点検をしながら組立を行う部員

今年はウッドフェスティバルが中止のため、上棟祭も出来なくなったので住宅対策部、技術対策部合同で建物の部材点検を十月十七日、十八日の二日間、田川建労の敷地内で行うことになりました。

一日目は、住宅対策部を中心に土台を据えて足場を組んで次の日の準備を行い、一日目は終了しました。

二日目は、技術対策部と合同で部材の点検を行いながら

建物を組んで行きました。桁を組み、小屋組みの棟木まで組みあがった所で終了です。仕事スムーズに進み、破損箇所等の確認を行い、部材点検を行うことが出来ました。直ぐに解体するのがもったいないので、少し皆さんと眺めてから解体して所定の倉庫の材料置き場に積み、足場も解体して終了しました。

ビジネスメール講座

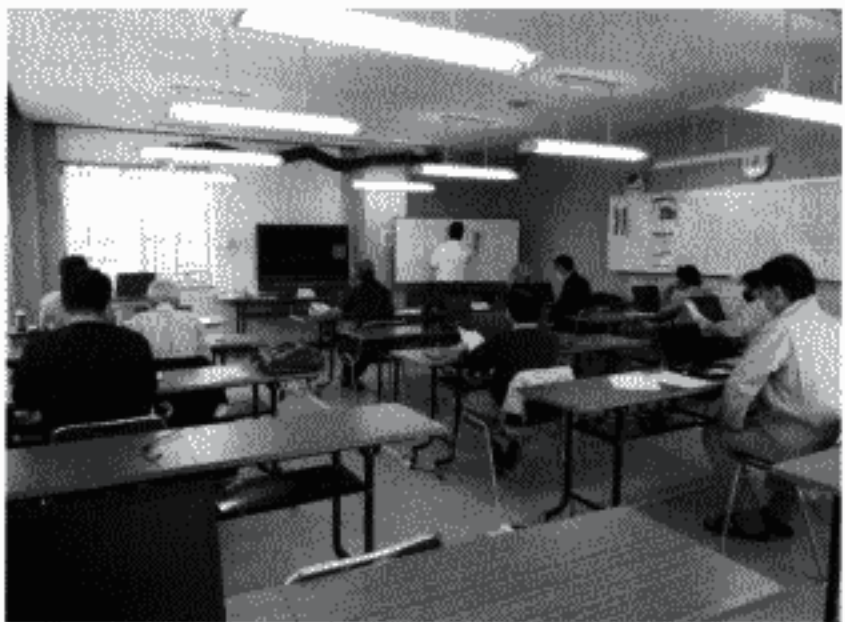
賃金・税金対策部長 佐々木 博 良

来年以降、フェスティバルに足を運んでくれるお客様の目の前で建て方を出来れば、最高だと思っています。来年は、コロナウイルスが終息するように願う今日この頃です。住宅対策部員、技術対策部員のご協力に感謝致します。無事、上棟式用部材点検を終えることが出来ました。大変ご苦勞様でした。

去る十月三日、四日と二日間、わたりビジネスメールを学ぶパソコン教室に参加させて頂きました。組合存続の居場所として老人に限りなく近い私達ですが、成人訓練の一環です。

参加者は執行委員九名と一般組合員一名の計十名で、密に成らぬ様長テーブルに一人。一日目はメール編で、メールアドレスの各部位の説明を受け、偽装メールの見破り方も教わりました。その後、参加者同士でメールや添付写真などを送受信。見回すと生徒は皆職人さん、無骨な人差し指

一本でポチポチと打っている姿が微笑ましく想えました。そんなこんなで一日目が終了しました。二日目はウェブ会議編です。職人の世界ではあまりピンときませんが、コロナ禍においてテレビ等でも流行のあのZOOMを使つての授業です。各種アプリの説明や必要な機材等をお聞きして、いよいよモニター画面に私の顔が映し出されました。が、ショッ



▲真剣にパソコンに向う受講生

クで直視できませんでした。還暦を迎えたとはいえ、鏡に映る顔となんか違う感じなのです。ショックを抱えたまま二日目終了です。今スマホ一台で何でも出来る時代です。若い世代にはキーボードを打てない人たちも多いと伺いました。息子が小学校四年生の時にパソコンの授業が有ると聞き我が家でも導入、見積書や請求書に活用してきました。乱筆の私には有難いツールです。今回の教室では、パソコンという器械の可能性と奥深さを教えて頂き、あらためて感謝申し上げます。

赤ちゃん誕生

おめでとうございます

第8回

羽黒支部

小泉 智寿さん(40歳)

恵理さん(39歳)

陸斗くん(7歳)

佑月ちゃん(11ヶ月)

今回は、羽黒地域在住の小泉さん親子を紹介します。

智寿さんは、高校卒業と同時にに大工になる事を決め職業訓練校で学び、現在は鶴岡市内の建築会社で大工として頑張っています。

又、田川建労羽黒支部では委員を務められています。

奥さんの恵理さんとは知人の紹介で知り合い交際するようになり、結婚したそうです。恵理さんの趣味は読書で、家庭的で温厚な感じ



(記・教宣部 富樫 正志)

のする方でした。長男の陸斗くんは、元気が良くポケモンのゲームが好きで、よくイオンモールのゲームセンターに家族で出かけ楽しんでくるそうです。

そしてこの度、長女の佑月ちゃんが生まれ、智寿さんには佑月ちゃんへの夢を聞いたところ、世界で活躍する人になって欲しいと頼もしい答えが返ってきました。

主婦の会研修会

主婦の会 伊藤 菊子

十一月十五日(日)、主婦の会研修会が田川建設労働組合を会場に行われました。今年は、新型コロナウイルスの影響で色々な行事が中止になってしまいました。研修会ではマスク着用で参加をして頂き、皆さん久しぶりにお会いできてとても嬉しそうでした。今回は二十九名の方が参加をして下さいました。

研修内容は「大人の塗り絵」です。見本などを見ながら色鉛筆で季節を彩る花や風景のポストカード等を皆さん和気あいあいと自分なりのセンスで作品を仕上げていました。時間の関係で、完成までとどかなかった方もいましたが、色鉛筆も資料の一つとしてお持ち帰り頂き、お家でも楽しんで頂けたらと思います。

今年度の活動は、研修会のみとなってしまいました。毎日報道される、新型コロナウイルス感染者数の多さに怖さを感じます。国民の命とくらしを守るためにマスクの着用を心がけ、手洗いうがいなどをしながら乗り切っていくしかないと思います。どうか皆さんもお気を付けてください。

これからの活動にもご協力をどうぞよろしくお願い致します。



▲見本を手に作品を仕上げる参加者



▲きれいな作品が完成しました

親子二代

第55回

藤島支部

廣井利行さん(50歳)

翼さん(25歳)

今回は、藤島の東栄地区で建築業を営んでいる廣井さん親子を紹介します。

父の利行さんは、先代である父親の後を継ぐべく平成四年から羽黒の成田建築さんの下で修業に励み、技術を習得されました。平成十年に独立し、木造在来工法(新築、リフォーム等)を中心に活躍されています。

息子の翼さんは、高校卒業後、埼玉県の大手企業に数年勤めておりましたが、父親の仕事に興味があり、一緒に働きたいとの思いが強く、令和元年より利行さんの下で技術の習得に汗を流す日々を送られています。令和二年の春から職業訓練校で学ばれており、将来有望な好青年です。

一昨年には、翼さんが戻って来られるのを機にご自宅を新築され、お二人共気力が充実されています。新宅には薪ストーブがあり、休日には薪集め、薪割り



▲現場で肩を並べる廣井さん親子

と「休みだなさ疲れる」と嬉しそうに話してくれました。

お二人にお互いに思う事、願っている事を尋ねてみると、翼さんは「体に気を付けて、いつまでも目標とする親父でいて欲しい」と、利行さんは「学べる時、時期を大事にして技術を習得して欲しい」と話してくれました。

利行さんは、藤島支部の会計の役職をされています。陰で優しい奥様のご協力があつてのことと感謝申し上げます。こちらからの無理なお願いにもかかわらず、お忙しい中、快く取材にご協力を頂きありがとうございます。

(記・教宣部 新聞 辰夫)

住宅デー 湯野浜分会

湯野浜分会分会長 奥山 六雄

湯野浜分会は、十月十一日(日)に住宅デーを開催しました。今回はコロナ禍で開催の中止を考えましたが、役員会を開き、考えを聞き「春と夏の行事を中止したので、住宅デーは開催した方がいいのでは」との意見が出て、開催する事に決定し、準備を進めました。

今年度は、前日まで台風十四号の影響があり心配しましたが、当日の天気は晴れ、住宅デー



▲包丁研ぎの様子

和となり、包丁研ぎも屋外で出来て安心しました。組合員参加者が九人で、マスク着用と人と人との間隔も広く取りました。受付時間も九時から十一時までと例年より三十分短縮し、コロナ対策を徹底しました。来場者二十三名、包丁研ぎ数が六十五丁で、開始から次々と来場して頂き、住宅デーを待っていたかの様に感じられました。受付時間が過ぎても来場者が途切れず、

隣の西郷地区からも来て頂き、五十分延長で終了しました。コロナ禍で他の支部・分会が中止する中、開催して良いものか不安がありましたが、無事終わって良かったと思います。

午後からは、恒例の芋煮会です。組合員も芋煮を食べながら住宅デーをやって満足な顔をしていました。

来年は、何の心配もなく住宅デーが出来れば良いと思います。

編集

談話室

一年が経つのは早いもの、昨年を振り返ればやはり「コロナ禍」と云う事ででしょうか。組合においては活動の中止・縮小が相次ぎ、建労新聞一二三号(七月発行)は紙面を削ったの発刊となりました。

けれども夏場以降一定期間、田川地区では感染者が出ておらず沈静化が見られました。組合においても予防対策をとりながら徐々に活動を再開し、昨年を上回る参加者があった事業もありました。

新聞の編集では、ご覧の通り、掲載記事が多かったため、通常通りの紙面で発刊することができました。協力して頂いた皆様に感謝申し上げます。今年度においては、コロナ対策を取りながら本部・支部・分会の組合活動が再開されますよう、皆様の仕事・生活の面でも健康で活躍できますよう願っています。

(記・教宣部 関 寛)